

令和6年度第3回 旭川市雪対策審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月30日(水) 18:30~19:40
- 2 開催場所 旭川市総合庁舎7階多目的室(旭川市7条通9丁目)
- 3 出席者 **【委員】** 12名
飯野委員, 石塚委員, 大野委員, 帯川委員, 葛西委員, 岸浪委員,
田中(紀)委員, 田中(弘)委員, 堤委員, 中込委員, 中田委員, 松林委員
【事務局】 6名
高橋雪対策担当部長, 時田土木部次長(雪対策課長), 石持土木事業所長
(雪対策課) 高垣補佐, 関守補佐, 近江主任
- 4 欠席者 **【委員】** 3名
木下委員, 齊藤委員, 土川委員
- 5 傍聴者等 傍聴者2名
- 6 議題 (1) 令和6年度の雪対策の取組について
(2) 除排雪に関する市民アンケートの結果について
- 7 資料 次第
資料1 令和6年度の雪対策の取組
資料2 除排雪に関する市民アンケートの結果
- 8 会議録(要点) 別紙のとおり

会議録（要点）

1 事務局から報告

本日の出席委員数が過半数を超えており本審議会が成立していること、会議は公開かつ傍聴できることとしており、傍聴者の定員を5名とすること、本日の傍聴者数が2名であること及び前回審議会の会議録配布について事務局から報告。

2 開会

ただいまより、令和6年度第3回旭川市雪対策審議会を開催します。

3 議題（1）

会長の進行のもと、資料1に基づき、令和6年度の雪対策の取組について事務局から説明があった。議事進行は次のとおり。

【会長】

除雪センターを試行的に集約することなど令和6年度の雪対策の取組について報告がありました。皆さんから意見や質問などありますか。

【委員】

（意見なし）

【会長】

それでは、1ページ目の除排雪事業の業務体制に関して、センターの運営に携わる委員がいらっしゃいますので、補足や質問などあれば発言願います。

【委員】

除雪センターの統合の話は2～3年前からあり、市と我々事業者と打合せを重ね、ようやく一部の除雪センターを試行的に統合する段階に来たと思っています。試行する中ではいろいろな課題も出てくる可能性もあるので、臨機応変に対応していかなければならないと考えています。

【会長】

同じく2ページ目のICTの活用によるDXの推進について、御専門に研究されている委員もいらっしゃいますので、意見や質問などありましたら発言をお願いします。

【委員】

情報発信についていろいろな手段で行っており、非常に充実していると思います。新規で通報フォームも開設するので、どのような結果が出るのかを期待して見守りたいと思います。

【会長】

除雪マナーの向上の項目で、新規に広報プロモーションの実施とありますが、公募型プロポーザルによる実施事業者の選定の審査会に参加しました。啓発事業を強化していくことで市民意識の向上に大きく繋がっていくと思われませんが、市民代表の立場で参加されている委員に、こうした啓発活動の強化について意見がありましたら発言願いたいと思います。

【委員】

通報フォームについて、アプリを利用する人は良いんでしょうけれど、利用していない人には伝わるのでしょうか。

【事務局】

くらしのアプリは、ダウンロードして利用されている町内会の方が多いと思います。アプリから通報フォームに繋がり、写真や必要な情報を入力して送ることができます。これまでは何条何丁目のどのあたりと場所を説明しなければなりませんでした。写真を撮れば位置情報が記されるので、わざわざ住所を入力する必要はありません。くらしのアプリをインストールしていない人にはハードルが高いのかもしれませんが、要望しやすくなるのではないかと考えています。

【委員】

広報プロモーションについて、子供たちの声で「除雪ルールやマナーを守りましょう」伝えると大人も耳を傾けるのではないかしらと思うし、子供も聞くのではないかしらと思います。

【事務局】

パトロール車に拡声器をつけて「雪出しや路上駐車を止めてください」と広報する取組を今年度から新たに実施します。子供の声で話してもらえれば大人が話すよりも心に響く場合もあると思いますので、検討していきたいと思っています。

【委員】

学校周辺の除排雪の強化について、学校周辺で「ココが危ない」「屋根の雪が落ちてくる」など地域のハザードマップをどこの学校でも作っていると思いますが、学校とはやりとりしているのでしょうか。

【事務局】

昨年度も教育委員会を経由してハザードマップを集めて危険箇所などの情報把握をしています。特に子供が歩く場所で交通量が多いところは道路のパトロールを行いながら必要に応じ対応しています。今年は除雪センター機能の集約と充実の観点で、これまでの除雪センターのパトロールに加え、道路パトロールの担当を新たに設け、そうした危険箇所などを重点的にパトロールすることを考えています。

【委員】

オペレータの確保と育成について、補助金は何人分など枠はあるのでしょうか。また、冬期間業務に従事してもらうために補助していると思います。自衛隊などで免許を取らせると数ヶ月後には辞めてしまう人がいるとの話も聞きますが、どのような状況でしょうか。

【事務局】

今年度の免許取得支援事業の予算は240万円です。大型特殊免許が6万円、大型免許が10万円、建設機械運転技能講習が2万円で、免許取得費用の半分を上限に補助することにしており、昨年度の実績は147万円で取得者の延べ人数は28人となっています。この補助制度は個人に対して支払うものではなく、企業が従業員に対し免許を取得させる事業を対象に費用の一部を負担しています。免許を取得した従業員の1年後の雇用状況を報告してもらい、万が一離職していた場合は補助額を返還してもらう制度設計としており、何らかの事情により退職する従業員も中にはいます。

【委員】

私は仕事を定年退職してから旭川に来ました。「悪天候で新千歳便が欠航になったので旭川行きの便にする」との話をよく聞き、なぜ旭川空港ばかりと思っていたのですが、農家の方々が除雪に入っていることをテレビ放送で知りました。この審議会の委員になるまでは、何で除雪に来ないんだと思っていましたが、参加してみると、空港だけでなく、市内でも夜に車を走らせると重機がたくさん並んで、吹雪の中でも一所懸命作業していますし、運転手が夜寝ないでダンプカーで雪を運んでいるのを知りました。そうした作業映像を、タクシー乗り場やJRの待合室などで見せることで、非常に苦勞して作業していることが浸透し、苦情も減り、作業している人たちもやりがいを感じることができるのではないかしらと思います。人の集まるところで放映すると大し

たお金もかからないと思います。

【委員】

これから各地区で除雪連絡協議会の総会があると思います。町内会長やいろいろな人が集まりますが、「くらしのアプリ」のダウンロードをどうしたらいいのか分からない人もいるので、協議会が終わってからでもダウンロードするお手伝いをしてほしい。町内会長は会員から「この交差点がひどい」など話を受けることがあり、写真を撮って除雪センターに送って、対応してもらいたいという話にもなると思います。

もう1つ、生活道路の排雪計画の公開とありますが、どの程度まで公開するのでしょうか。「2回排雪作業してくれるのは良いが、うちの地域にはいつ入るのか。」とよく聞かれます。例えば〇〇地区とか、〇条〇丁目までの区分けなのか、それとももっと大雑把なののでしょうか。何月何日に排雪が入ると分かれば、自宅の屋根の雪下ろしをして道路に出し、持って行ってもらおうという人もいると思うので、ちょっと心配しています。

【事務局】

今のところ、街区ごとに上旬、中旬、下旬という程度で考えています。除雪センターにいつ頃になるかとの問い合わせがあれば、もう少し詳細な情報は説明できるかもしれませんが。雪が降れば排雪作業を中断して除雪作業を行うため〇月〇日といった具体的な情報は伝えられません。

【委員】

先ほどのオペレータに関する意見はとても重要だと思います。除排雪作業に従事している方々がどんな状況で作業をしてどんな苦勞をしているのか、また作業の計画はどうなっているのかなどを情報提供することで、通報フォームでも、「これは通報した方が良い」「これはちょっと我慢するか」など市民の行動変容に繋がると思います。排雪計画については、何故この地区は早くて自分の地区は遅いのかといった疑問が出ると思いますが、理由があれば付け加えると良いと思います。通報フォームについては、除排雪の仕組みなどを周知した上でなければ、投稿が多くなってパンクしてしまうのではないのでしょうか。また、「投稿しているのに返事が来ない」と怒ってしまうこともあると思いますので、その辺りを説明しないとトラブルが起きてしまうのではないかと思います。

【事務局】

今年度初めての取組ですので、フォームによる通報が増えて電話が減るのか、直接電話で話したい人が多く使われないのか、試行で検証する期間と考えています。今シーズンは不具合のカテゴリーを選んで送信してもらう仕組みとしており、1年間実施して、改善できるところは改善しながら進めていきたい。

【委員】

くらしのアプリの使い方を除雪連絡協議会で話してほしいとの意見がありましたが、くらしのアプリにどのようなアプリなのか、どのような情報が発信されているのかを周知しないと、使ってもらえないと思います。

【事務局】

くらしのアプリ自体は昨年6月から運用していて、担当課で説明会も開催しています。時間が経って忘れてる方もいるかもしれませんが、除雪連絡協議会の席上で説明していきたいと思います。

【委員】

高齢者は紙媒体を見ますが、くらしのアプリは将来的に町内会の回覧板や行事予定などいろいろなことに活用していくことになると思います。くらしのアプリで写真を添付して送ると、除雪センターの人は見に行くと思いますが、確認の結果は返信されるのでしょうか。

【事務局】

基本的には送られてきた写真を見て判断します。近くに寄りすぎて状況が分からないなど写真の映り方によっては現地を確認する場合もあるかもしれません。また通報フォームは、昨年度除雪センターに改善要望が多く寄せられた中で、新たな連絡方法として実施します。現時点でどの程度の通報が来るか分からない状況です

し、大量の要望が届いたときにはパンクしてしまいますので、今年度は通報に対する回答は行わない考えです。現地での対応状況や通報の件数、改善内容なども踏まえながら、来年度に向けて、回答の必要性や見せ方などを検討していきたいと思います。

【委員】

試行的に実施するとのことですし、「全ての通報に対応するわけではありません」と事前に説明した方が良いと思います。

【事務局】

通報に対して全て対応するわけではなく、かつ1つ1つの要望に対して回答を送ることはしませんと説明すべきだということですね。分かりました。

【委員】

このアプリでは、通報した人に折り返しアプリから返信することはできるのでしょうか。

【事務局】

アプリ上で直接返信する機能は今はありません。通報時にメールアドレスを入力する形となっていますので、そちらに返信することになります。

【会長】

他に意見はありませんか。

なければ、この「令和6年度の雪対策の取組」に沿って進めていくと思いますので、その成果をアクションプログラム等で確認していければと思います。

4 議題（2）

会長の進行のもと、資料2に基づき、除排雪に関する市民アンケートの結果について事務局から説明があった。議事進行は次のとおり。

【会長】

昨年度は12月に大雪が降り、排雪も計画を前倒しで実施することになり、とても大変なシーズンでした。その意味でこのアンケートの結果というのは、積極的に意見を言いたいとの市民意識が働いたものと思います。皆さんから御意見、御質問はありますか。

【委員】

5ページから9ページにかけて、例年と比べて悪いという回答が目立ちます。昨年度と比べているようにも思えますが、どうしてこのような結果になったと推測していますか。

【事務局】

昨年度は12月10日以降、1週間で102cmの記録的な大雪となり、除雪作業後に道路が狭くなって公共交通に遅延が生じたこと、また固まりにくい雪質でザクザク路面が発生し、車がスタックする状況があり、苦情要望の件数も非常に多くなりました。旭川市でも除雪企業に頑張ってもらって早期に体制を整え、ダンプの台数も確保してもらい、12月中旬から1週間で幹線道路の6割の排雪を終え、生活道路も通常2月中旬までかかるところ、10日間前倒して1月31日までに終わらせるなど改善に努めました。その結果、2月以降は例年の6割程度にまで減少しましたが、12月の大雪が印象に残り、このような結果となったのではないかと考えています。昨年度の時点ではできる限りのことをやって早期改善し、情報発信もしましたが、いろいろ検討し、今年度新たな取組を進めていきたいと考えています。

【委員】

今年の初めに雪処理現場の視察をしたときに、除雪センターの苦情の件数にびっくりしました。毎年苦情要望が来る場所や通報する人はある程度限定されているのではないのでしょうか。要望の全てに対処することは

無理な話ですし、除雪センターの僅かな人数で対応は難しいのかもしれませんが、データとしてまとめ、要望が毎年来るような交差点など箇所を絞って対策しておけば、「今年は見通しが良いな」などイメージも良くなって電話やFAXも減るのではないかと思います。

【事務局】

旭川市の道路は、主に幹線道路、生活幹線道路、生活道路の3つに分けて除雪していることは皆さん御存じだと思います。実際には、例えば狭いバス路線は広いバス路線と同じように管理していると早く狭くなるので排雪を多くする必要があり、そういった路線を選別して、幹線道路の困難路線などに細分化して除排雪作業を強化しています。また、学校周辺で注意しなければならない箇所は、除雪センターで把握してパトロールも行っていますが、確認すべき場所は大量にあり、今年度パトロール体制を強化しますので、状況を把握しできる限り早く改善していくことができれば良いと考えています。

生活道路の排雪作業は一巡するのに1か月かかります。一度排雪すると次回まではかき分け除雪で道路を広くしながら対応していくしか方法はありませんので、パトロールで見通しの悪い箇所は積み直しなどで対応していくしかないと思います。

【委員】

12、13ページはこのアンケートの総括的な意味合いがあると感じます。大雪時の対応を強化してほしいとの回答については、旭川地方気象台で1週間の天気予報を掲載しています。大雪が予測されるときに「外出は避けてください、車がスタックする危険性があります」などアナウンスしたり、市の対応状況を発信したりすると良いと思いますが、対策事例などはありますか。

【委員】

海外では、極端な例だと、危機対策庁のようなところが、「法律で外出禁止です、除雪作業が終わるまで出ないでください」と社会活動を止めてしまう国もあります。国内は、学校なら暴風雪のため臨時休校ですと整理できるでしょうが、夏と冬で同じ時間帯で動いて渋滞が発生していますし、会社で自宅勤務にするなどの社会的合意が必要だと思います。

【事務局】

気象台では2週間前から早期天候情報などを発表しています。数年前には札幌市で、去年は留萌市で大雪になりましたが、あのような局所的な大雪は本当に予測が難しく、前日もしくは数時間前でなければ分かりません。去年は、暴風雪や交通障害の恐れなど警報級の予報がある場合は、防災担当あるいは土木部からSNSやホームページなどで、不要不急の外出は避けてくださいとの事前告知を行いましたし、昨年12月の記録的な大雪から、1月中旬以降は除排雪作業をこのように進めていますと毎日のように発信しました。今年も同様に情報はできる限り出していきたいと考えています。

【会長】

このアンケートでの市民からの率直な意見への対応が、先ほどの議題の今年度の雪対策の取組として反映されていると思います。

5 その他

会長の進行のもと、事務局から広報あさひばし11月号に「除排雪に関するお知らせ」として、除雪センターの場所や連絡先、市民開放する雪堆積場の案内、除雪出動基準や作業の仕組みをQ&Aで紹介するコーナーなどの内容を例年どおり見開き2ページで掲載を予定していることについて説明があった。

また、雪対策担当部長から、2年間の委員の任期満了を迎えるに当たり、雪対策基本条例の制定をはじめ、本市の雪対策に係る数多くの重要事項について審議が行われたことへの謝辞があった。

また、会長から、雪対策基本条例の制定に取り組んだことの委員への謝意とともに、冬の生活をより良くし

ていくため、雪対策基本計画アクションプログラムの検証など今任期で知り得た雪対策についての知識や理解を、地域で拡げて行ってほしいとの要請があった。

6 閉会

【会長】

以上で令和6年度第3回雪対策審議会を閉会します。